

五縁

五縁なる言葉に辿り着いた経緯は「すしセン*HP」－「旬のおたよりページ」（その時々「いしかわ旬の鮨だより*」を紹介するページ）において、先ずは2016/8/2公開の「白鱈の宴」が発端となる。簡単に述べるとネタが「シロギス」のみで、調理法が5種の盛合せのタイトルとなる。（詳しくは該当ページを参照ください。みてね）

その後、同年9月中旬にその「白鱈の宴」を改善し、ネタが同じ「シロギス」のみ5種10貫（1種2個（貫））のニコニコ盛りのタイトルを考慮中「五縁」に辿り着いた。

先ず、元となる「白鱈の宴」の「宴」は訓読みで「うたげ」、音読みで「えん」とどちらで読んで頂いても差し支えないし、意味は「シロギス」をネタにした鮨の「うたげ」であり、「宴もたけなわ」の「えん」でもある。楽しさや賑やかさを演出したつもりである。

次に、それを継承し改善したタイトルをと、考慮中に先ず出てきたのは、その音読みの「えん」繋がり「白鱈園」と「白鱈苑」が瞬間的に閃いたが、どうも腑に落ちない。

そこで、何かもっとピッタリ来るようなタイトルをと、あれこれ思案している最中に、より「シロギスの5種」を意識付けるようなタイトルが必要なのかと気付き、再度練り直していく過程で、「白鱈五園」と「白鱈五苑」が発生した。読みは何れも「しろぎすごえん」でスッキリ読めるが、漢字表記が中華料理店名のようにしっくり来ない。

「ごえん」をどう表記するのが次の課題となり、その解決途中に「五円」これは5円で販売不可だから即却下。次に相当良くない「誤嚥」事故死に直結するから地球外へ廃棄した。ろくでもない「ごえん」が次々と生まれる中、「五」の拘りを一時外してみたら、「ごえん」→「ご縁」→「御縁」→「五縁」→「白鱈五縁」一瞬の内に生まれた。

では、その「五縁」は一体どう定義するのだろうか。一般論的に考察してみた。

- 1) 直近の両親を筆頭にご先祖様とのご縁。（自分が存在する源）
- 2) 伴侶とのご縁。
- 3) 子供とのご縁。
- 4) 仕事に関するご縁。（人が本質。その他、金・モノ・情報）
- 5) 仕事以外に関するご縁。（友人・地域・趣味等何らか社会性のある繋がり）

まるで結婚式のスピーチの「3つの袋」（今時こんなスピーチする人いるのか）のように恥ずかしいし、こじつけた感じがするかも知れないから、他言無用。内緒にして。

人間一人で生きてはいけないことは十分理解しているはずであるが、無縁社会にどっぷり浸かった人々が多い中、ご縁を意識することは日々の生活の中では難しい事なのかもしれないし、ご縁に気付かない人々や、大切にしない人々が多いこともなんだか切ない。